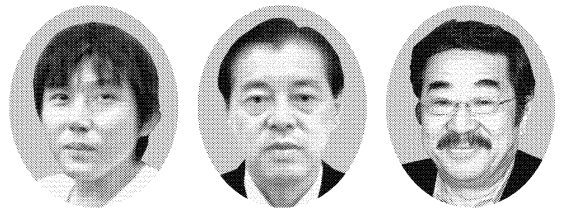




安定供給の確保が叫ばれる希少金属（レアメタル）に関する情報交換の場をビジネスパーソンらに提供する会がある。国際レアメタル&リサイクル研究会（IRRS&G、千葉県船橋市）だ。年に数回、レアメタル関連の専門家らを招いた講演と参加者による懇親会を

開催。わかりやすい講演が好評を博し、毎回1000人前後の参加者を集める。講師を数人招いた講演やパネルディスカッションの中はレアメタル政策から、中国人のビジネスカルチャーまで様々。講演が終わり一通り質問や議論が飛び交った後も懇親会で議論が続く。参加者は大学やメ

## 国際レアメタル&リサイクル研究会 (千葉県船橋市)



左から棚町、加藤、中村の各氏

### 専門家ら招き情報交換

がIRRS&Gの事務局長、国際資源大学の教学長の棚町裕次氏（40）。棚町氏は日刊市況通信社の記者として働く傍ら、講演や雑誌執筆など幅広く活動する。「講演会も一緒に開催したらどうか」。そんな声が寄せられるようになったのは07年ころ。棚町氏はレアメタルやリサイクルなどをテーマとした講演会と懇親会を併せて開催するIRRS&Gの発足を決意した。

棚町氏は「IRRS&Gの第一線の営業マン」として、加藤秀和氏（59）。同和鋳業（現DOWAホールディングス）で経営企画に携わっていた1990年代初頭、「まだ誰も見向きもなかった」リサイクルに目をつけた先駆者だ。取材を通じて棚町氏と知り合ったという加藤氏は、IRRS&Gがまだ懇親の飲み会だったころからのメンバーだ。リサイクルの専門家として自ら講師役を引き受けることもある。「堅苦

「当時のレアメタル業界の認知度を上げようと必死だった」。研究会の副会長でレアメタル専門商社、アドバンストマテリアルジャパン（AMJ）社長の中村繁夫氏（62）は発当初を振り返る。

04年にAMJを立ち上げた中村氏。レアメタルの取材を通じて知り合った棚町氏から誘いを受け「認知度を上げるのに役立てば」とIRRS&Gに参加するようになった。

環境に優しい金属など「具体的なテーマを見いだして、その金属で産業界にどう貢献できるかを伝えたい」と中村氏は意欲を示す。今後は同氏をはじめとしたビジネスパーソンによる新しい事業への取り組みも一段と活発化しそうだ。

カーの関係者などで、懇親会を機に商談に発展することもあるという。

金属関係の専門家らが2005年ころから集まり、懇親会から発展して価格動向などの情報交換をしているのがIRRS&Gの発端だった。彼ら結びつけたのがIRRS&Gの初代会長が

「来てもらった人に満足してもらいたい」と考えて講演のテーマを選定。その道の専門家に講演を依頼する。参加者をひきつける専門家の講演のおかげで「幅広い分野でその分野の一流

（竹本恵）